レッスン：11“A”

　テーマ：現在のパーソナリティー及び永遠のパーソナリティーの分析

　PPSELF11A．DOC．AEO

私たちの兄弟姉妹であり、

　スピリット、光、火の子供たちへ。私たちは常に絶対なる神、聖なる存在に包まれています。

　前のレッスンでは、本当の道に足を踏みだそうとしている真理の探究者のワークについて話しました。

私達は次のように述べました…一方ではそれは、自分自身を良く知るという究極的目的を持つ自己観察であり、他方では、インナーセルフが低次のセルフを通じてそのパワーを表現することができるようになるために、パーソナリティー（現在の性格、人格）であるセルフ・エピグノーシスを通じて行う、低次のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスに関するワーク、およびインナーセルフに関するワークであると。

　勿論、パ－ソナリティーであるセルフ・エピグノーシスはある程度のパワーを獲得するようになります。それらのパワーは、インナーセルフである魂のセルフ・エピグノーシスによって獲得することは出来ません。なぜなら、既にそこにはパワーがあるからです。

　真理の探究者はいかにしてそれを達成するのでしょうか？この時点で、私達は真理の探究者を分析する必要があります。どちらの真理の探究者でしょうか？どちらの真理の自己探究者でしょうか？…なぜなら、私達が自分の本当のセルフであると考えるものは本当のセルフではなく、本当のセルフである低次のセルフはまだそれについて知らないからです。時間・空間内におけるパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスが、それ自身を通じて超越的光として輝くのを許すのはこの本当のセルフです。

　実際、それは真理の探究者が自己観察を通じて成長した時に達成されるもののひとつです。さて、自己観察と言いますが、それは何を意味するのでしょうか？それは低次のセルフ、現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスの行為に関する探究なのでしょうか？部分的にはその通りです。なぜなら、それらは私達の最初のステップであり、それは将来、

どちらが本当のセルフであるかを理解する正しい道へと私達を導いてくれるからです。

そして、今の時点ではどちらが私達の本当のセルフでないかさえわからないからです。

　ですから、今の所、ふたつのポイント、ふたつのセルフがあります．つまり時間・空間におけるパーソナリティーのセルフ・エピグノーシス、そしてもうひとつのセルフです。このもうひとつのセルフについて、特徴を述べることは控えますが、私の本当のセルフと呼びましよう。さて、誰が探究を始めるのでしょうか？低次のセルフ、現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスでしょうか？ニコス、ジェームス、ソニア、クリスチアーナ？それとも、インナーセルフ、つまり私がまだ定義していないが魂のセルフ・エピグノーシスと名付けたセルフが探究を始めるのでしょうか？

実際、私達はふたつのセルフを持っているのでしょうか？自己観察を始めるに当たって、まずこの問題に突き当たります。

　一つの線として、２つのポイントがありますが、それは一本の線であり、両方のポイントがそれぞれ主張しています。同じようにセルフ・エピグノーシスは低次のセルフ、つまり現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシス、私達の時間・空間におけるセルフ、そしてインナーセルフのセルフ・エピグノーシス、つまり時間・空間という制限内でそれ自身（Itself）を表現しているセルフの両方によって主張されています。

**実際、ふたつのポイントを持つひとつの表現なのです…時間・空間内における表現、および永遠のヒポスタシス。**

　さて、しかしながら私達は知る必要があります。誰が知るのでしょうか？線上のふたつのポイントの中のどちらが知るのでしようか？この線を圧縮して、ふたつのポイントがひとつになるようにし、結果的に線ではなく輝くひとつのポイントにすることができるでしようか？どうしたらよいでしょうか？

　最初は、探究はニコス、ソニアから始めます。つまり、現在の時間・空間内のセルフです。このセルフが恩恵を蒙るのです。

**低次のセルフがインナーセルフに近づくと、低次のセルフはインナーセルフが全てを知っており、全てを所有していることに気づきます。それは神であり、絶対存在の部分なのです。「あなた方は全員神の息子達なのだ、と私は言う」（＊キリストの言葉）**

　Page2

　そういうわけで、

探究、自己分析は現在のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシス、つまり私達が時間・空間のパーソナリティーと呼ぶセルフによって始まります。

現在の私達にとってこの時間・空間のパーソナリティーはリアリティー（現実）です。

あるいは、インナーセルフの観点から見れば、リアリティーの現れとなります。

しかし、現在の私達の地点から見れば時間・空間的局面はリアティーなのです。

　さて、今、ニコス、ソニアによって探究が開始されました。目を閉じて、ワークが始まります。直ちに疑問が出てきます…彼あるいは彼女とは誰なのでしょう？勿論、探究は現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスの最も低い時間・空間ポイントから始まります。彼および彼女は誰かと言いました。今や、男性、女性という性別が問題になっています。

　真理の探求は彼または彼女という探究者によって始められますが、これら二人の人間のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスは異なります。

**しかし、先に進むと性別のないポイント、時間・空間の影響もなく、「私」というセルフ・エピグノーシスのみがあるポイントに到達します。この「私」は男性にも女性にも共通であり、違いはありません。**

　ですから、この線のポイント、私達が時間・空間における現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスと名付けた低次のポイントにおいて、私達には性別の違いがあるのみならず、同じ性でも各人異なっています。**しかし、探究、自己観察が進むと、私達全員が同じで、違いが何もないポイントに到達します。私達がそれぞれ異なっているのは現在のセルフ・エピグノーシスとしてのみです。魂のセルフ・エピグノーシスとしては私達は全員同じであり、神の息子であり、全能なる神の息子なのです。**

　探求が開始され、自己観察はニコス、ソニアによって始まりますが、それによって低次のセルフは何を得るのでしようか？何を学ぶのでしょうか？何になるのでしょうか？それは聖パウロが述べたように、現象的には滅ぶべきものが不滅を身にまとい、現象的には死すべきものが不死を身にまとうことができるようになるために、そしてこの低次のセルフとは何かを知るためです。

　誰が知るのでしょうか？ニコスまたはソニア？聖パウロによれば毎日死に、本当のセルフの時間・空間的現れである彼等なのに、いかにして知ることができるのでしょうか？人間のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスは毎日変化します。何が原因で、パーソナリティーのセルフ・エピグノーシスは変化するのでしょうか？時間が変化を引き起こします。毎日変化するのみならず、時間単位、そしてそれ以下の単位で変化します。

　誰が知るのでしょう？永遠のパーソナリティー、および現在のパーソナリティーの想像上の線に関する次の説明を注意深く聞いて下さい。**私達はこの線を以下のように見ます…この線には魂のセルフ・エピグノーシスが点ではなく、始点と終点がある線として存在しています。この始点から終点までの距離が私達の魂のセルフ・エピグノーシスです。この線の終点における点は、永遠のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスと呼ばれているものです。**

**ところで、ここに、この線の影があります。そして現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスとしての点があります。影とは…現在のパーソナリティーの時間・空間的現れ、滅びるペきもの、常に変化するもの、私達が自分のセルフであると思っているが本当はそうではないもの…です。**

**この点は、永遠のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスであり、線の残りの部分は輝き、つまり私達の魂のセルフ・エピグノーシス、神なのです。それらは両方とも全てを知っており、その影がニコス、ジェームス等など今のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスなのです。**

しかし、私達は一番低いポイントからワークを始めます。私とは誰か？「私とは誰か？」をどこからスタートしたら良いか？どの地点からスタートするのか？私達は自分が男性であるか女性であるかという同じ地点からスタートします．そこには多くの共通する特徴、欠点とも言えますが、時間・空間における弱点があり、それらを私達は一般的にエゴと呼んでいます。

　私達はニコス、ジェームス、ソニア、クリスティアーナ等という私から探究をスタートします。さて、それでは私とは何でしようか？

　Page3

私は様々なものを必要とする粗雑な肉体です。これらの粗雑な肉体が必要とするものは簡単に知ることができます。この探究において、肉体は私達のセルフではなく、私達に属する何かです。私達はそれを探究によって発見します。それでは、誰がそれを発見するのでしょうか？

私達は誰がそれを発見するのかを見いだします。なぜなら、ニコスまたはソニアが自分たちの探究を始める時、

**彼等の背後には永遠のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシス、「I am I」が存在します。従って、熟考と探究が始まる最初の瞬間から、それは影である今のパーソナリティーによって行なわれるのですが、しかし「I am I」によって動機づけられています。**

私達は時間・空間における影をコントロールするために、それを学び、探究し始めるのです。ここでは批判とは言わずにコントロールと言います。観察して、知るのです。**ですから、真理の探究者、あなたのセルフは男性、女性とも同じであり、それは「I am I」なのです。**

　探究が始まります。今、誰が探究しているのでしよう？最初は下向きの探究を行います。その結果、私達は自分がこれまで考えていたような人間ではなかったことがわかります。下降して、探究に疲労困ぱいした時、探究、魂のセルフ・エピグノーシスに向かう本当の自己分析を始めます。始めからこれを行うことはできません。なぜなら、先ず自分が疲労困ぱいする必要があるからです。それによって、

**自分がそれまで考えていたような自分ではないことに気づきます。自分でないものを除去すると、セルフ、「Is」を知り始めるようになります。**

**私達の最初の探究はエゴイズムに関してです。実際、男性であろうと女性であろうと、現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスの背骨は、私達がエゴイズムと呼んでいるものであると言えます。**

　これは「I」（私）（\*本来の私）とは何の関係もありません。なぜなら、エゴイズムと呼ばれるこの怪物を駆り立てて殺すと、それまで怪物が居座っていた場所に、インナーセルフの魂のセルフ・エピグノーシスとしての威厳を見いだすようになるからです。それは偽りの感覚、条件付け、幻想、傲慢による産物などではなく、むしろ真理に関する本当の知織なのです。

　「真理を知りなさい。そうすればあなたは無知の拘束から解放されるであろう」

　各人間の現在のパーソナリティーは、時間・空間において無知の暗黒の中で行動しています。私達が探究を開始すると、自分自身でこの事実に気づきます。一日の始まりも終わりも同じであり、昨日も今日も同じで、明日も同じことでしょう。

**現在のパーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスは同じであり、戦い、争います。他に何があるでしょうか？探究を始めると、私達の肉体と同様に現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスも何かを必要としていることがわかります。勿論、私達の目的は現在のパーソナリティーを退治することではなく、それをより良いものに変えることです。**

　これらのニーズのプレッシャーの下に、エゴイズムとしての現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスの行動を見ます。このエゴティズムとは何でしょうか？

　ここに迷宮があり、この迷宮においてエゴティズムはミノタウロス（＊ギリシャ神話．人間と牛との間に生まれた人身牛頭の怪物。　ミノスがダエダラスに命じて作らせた迷宮に閉じ込め、毎年7人の少年少女をこの怪物に食べさせていたがテーセウスに退治された）であり、テーセウスがミノタウロスを殺すためには、王様の娘であるアリアドーネ…現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシス‥・の助けを必要とします。しかしながら、彼女の助けを得て怪物を殺すと、テーセウスは彼女を見捨て、置き去りにします。古代の祖先達は完成にいたる方法を知っており、それを神話という形で表現したのです。

　さあ、エゴティズムから始めましょう。勿論、現在のパーソナリティーのセルフ・エピグノーシスの助けが必要です。今朝、よい気分、あるいは悪い気分で目を覚まします。時間・空間における状況の犠牲者である一般の人間ならば、勿論、自己観察などしません。

不幸な人間はその日を緊張、イライラ、誤解、怒りなどでスタートし、仲間と争います。心を占める主な話題はゴシップや誤解、推測、偏見などによる話しであることがしばしばです。注意深く見てみると、ほとんどの人間の人生の大部分はそのようなものであることがわかります。もし、私達が意識的に自己観察、探究を行わなければ、私達の人生も同じではないでしょうか？もし私達が今この段階にあるならば、私達が既に持っているものを最大限に利用していないのに、いかにしてもっとパワーを求めることができるでしょうか？そして、それらはすでに人生における障害になっているのではないでしょうか？

　Page4

どのようなパワーが私達に与えられているのかと尋ねるかもしれません。

私達には正しく使用すべき思考、感情、ハートという聖なる贈り物があります。ハートという場合、胸にある心臓ではなくて愛、私達を怪物ではなく天使のように振る舞わせる何かを意味します（＊ハートのセンター）。

　私達は探究を継続します。でも、どのポイントから？

私達、一人ひとりが立っている成長のレベルからスタートします。人によって多く苦しむ人もいれば、それほどでもない人もいます。大いに探究しなければならない人もいれば、大いに克服しなければならない人もいます。越えるものが沢山ある人もいれば、それ程でもない人もいます。各人はどれほど多く克服しなければならないでしょうか？しかし、それはそれほど重要なことではありません。重要なことは、誠実性と意志であり、

**永遠のパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシス、「I am I」（私は私である）と協力するのです。**

　真理の探究者、あるいは自己分析・自己観察を行う真剣な生徒は、非常に爽やかで、優しいセルフを表現しているように見えます。彼等は争い、攻撃、嘘などに簡単に誘発されません。彼等は同胞の幸せの方にもっと心を向けているのです。ですから、自己観察をスタートする時には、私達は先ず自分自身、自分の意志に対して誠実でなければならず、想念という聖なる贈り物を通じてマインドを上手に利用する必要があります。

私たちは常に絶対なる神、聖なる存在に包まれています。

EREVNA/PPSELF11A.DOC/EN/A